

統計

●米國に於ける一九一六年前半期の銑鐵產額

米國銑鋼協會 (American Iron and Steel Institute) は本年一月より六月に至る前半年に於ける米國の銑鐵產額を示せる特別統計の會誌第五號(一九一六年)を發行せり。此の前半年に於ける銑鐵の全產額は一九一五年後半年の一七、六八二、二三屯、一九一五年前半年の一二、二三三、七九一屯に對し一九、六一九、五二二屯即ち昨年の同期間に於ける產額に比し七、三八五、七三一屯の増加を示せり。本年一月より六月に至る間の產額の詳細を昨年の各前後半年のそれと比較せば次の如し。

半ヶ年間に於ける銑鐵產出額(州別にしたるもの)
 半ヶ年間に於ける銑鐵(總ての種類を含む)の產額

州名	一九一五年七月三十一日		一九一六年六月卅日		產額(屯) 滿鐵、註酸鐵、燐酸、 鐵等を含む
	操作	中止	操作	中止	
マツサチユセツツ	0	1	1	2	3,077
コンネクチカウツト	1	0	3	3	4,755
ニューヨーク	18	20	7	27	4,755
ニュージャージー	1	1	4	5	1,232,214
ペンシルバニア	23	23	25	25	1,232,214
メーリーランド	3	4	1	5	1,232,214
合計	45	49	35	62	1,232,214

ヴァージニア	7	9	11	11	1,057,474	1,474,011	1,017,474
ジョージア	0	0	4	4			
テキサス	0	0	2	2			
アラバマ	27	32	26	27	8,684,411	11,211,233	1,366,738
ウエストヴァージニア	3	4	0	4			
ケンタッキー	3	4	2	4			
ミスシッピ	0	0	1	1	7,938	22,283	2,688,858
テネシー	6	11	0	18	8,292	4,477	1,477,008
オハイオ	3	6	9	18	2,948,222	3,948,751	4,235,070
イリノイス	2	3	1	4	80,221	1,648,368	1,938,153
インディアナ	10	10	0	10	8,482,755	11,321,003	1,077,768
ミシガン	11	13	2	14			
ウイスコンシン	7	6	2	8	2,075,544	2,484,435	4,775,431
ミネソタ	2	3	0	3			
ミズーリ	1	1	1	2			
コロレド	2	4	2	6	1,371,888	1,437,333	1,051,888
オレゴン	0	0	1	1			
ワオシントン	0	0	0	0			
カリフォルニア	0	0	0	0			
合計	330	348	103	446	42,333,791	57,666,433	29,669,533

骸炭銑鐵の半年間に於ける產額

ニューヨーク	18	20	3	23	9,256,666	11,211,233	11,211,233
ニュージャージー	1	1	4	5			
ペンシルバニア	23	23	25	25	1,232,214	1,232,214	1,232,214
メーリーランド	3	4	1	5	8,557,8	1,655,666	2,438,955
ヴァージニア	7	9	10	19			
ジョージア	0	0	2	2	10,574,474	1,474,011	1,017,474
テキサス	0	0	1	1			
アラバマ	27	32	26	27	8,684,411	11,211,233	1,366,738
ウエストヴァージニア	3	4	0	4			
ケンタッキー	3	4	2	4	7,938	22,283	2,688,858
合計	77	84	45	97	37,333,791	51,211,233	29,669,533

テネシー	六	二	六	一七	八二九三	九四、七七	一六、一三八
オハイオ	六	三	八	七五	三、六四〇〇七	三、九四八〇八	四、三〇、七九〇
イリノイス	二	三	一	二四	八〇、一九五二	一、六四五、二六九	一、九三八、一五三
インディアナ	一〇	一〇	〇	一〇			
ミシガン	二	三	一〇	三			
ウキスコニン	五	五	一	六	八五、二〇四	一、二二、三四	一、二、二、二、四
ミネソタ	二	三	〇	三			
ミヅリ	〇	〇	一	一			
コロレド	二	四	二	六	一六、一九三	一八、一九四	三六、二七四
カリホルニア	〇	〇	〇	〇			
合計	二六	三三	六九	三九	三九〇、三〇六、八〇八	一七、四七五、五〇〇	一九、三四七、九三三

無烟炭及び無烟炭と骸炭混用銑鐵の産額

ニューヨーク	〇	〇	三	三			
ペンシルバニア	四	六	七	一三	四、四七	四、三六	七九、五九一
合計	四	六	一〇	一六	四、四七	四、三六	七九、五九一

木炭銑鐵の産額

マツサチユーセツツ	〇	一	一	二			
コンネクチカット	一	〇	三	三	三、〇八七	四、七五	四、七〇〇
ニューヨーク	〇	〇	一	一			
ペンシルバニア	三	二	三	五	一、八二四	一、九六四	二、二八六
メーリーランド	〇	〇	一	一			
ヴァーヂニア	〇	〇	二	二	九五	三〇九	—
アラバマ	一	二	二	四	一四、八九六	一三、〇五	二〇、三六
ジョージア	〇	〇	二	二			
テキサス	〇	〇	一	一			
ケンタツキー	〇	〇	一	一			
テネシー	〇	一	〇	一	一〇四	六六三	八八一
ミスシッピ	〇	〇	一	一			
オハイオ	〇	〇	一	一			
ミシガン	〇	九	二	二	九八、八五六	二二八、九四六	一三三、六七

使用せる燃料によつて分類せる銑鐵の全産額

ウキスコニン	二	一	二				
ミヅリ	一	一	一				
オレゴン	〇	〇	一	一	一〇、五四	三六、一〇三	三三、三四
ウオシントン	〇	〇	〇	〇			
カリフォルニア	〇	〇	〇	〇			
合計	一七	二七	三三	四〇	一、二九四、九六	一、六六、五六	一、九一九、九六

半ケ年間の銑鐵産額(種類によつて分類せるもの)

鹽基性銑鐵の産額

州名	一九二五年の前半	一九二五年後半	一九二六年前半
ニューヨーク	二四八、七三五	五〇七、八六四	五七三、二四四
ペンシルバニア	一、四六八、八四四	二、二二一、五〇三	二、三〇、七七七
同 其他	一、四三二、八二六	二、一三三、一九一	二、五七六、三九六
ヴァーヂニア	三、二五二、三三	四、六七、八七九	五、〇一、三三
オハイオ	八四一、三三六	一、〇五七、六七七	一、一九九、二六七
インディアナ	八〇九、〇〇五	一、四一八、四三九	一、四一六、二四六
ミシガン	一、五四八、八五五	一、七三〇、四七	二、一三〇、三〇
合計	五、二五九、六四四	七、八三三、六〇〇	八、八三〇、〇八

ベッセマー及低磷銑鐵の産額

ニューヨーク	一七〇、一四九	一八七、六三三	三三三、四三
ペンシルバニア	一、七四九、七五五	二、五九八、三四一	二、五九八、三五九
メーリーランド	七三、四四九	一五二、九三〇	三、七六、六三
ウエストヴァーヂニア	七〇、二二四	一、九四、七六八	三、八八、一八二
タツキー	一、六六一、五二六	二、三二八、九〇五	二、三二七、四〇
オハイオ	一、六六一、五二六	二、三二八、九〇五	二、三二七、四〇
イリノイス	五、二二五、五〇四	九、三三三、五三	一、二二〇、九七
合計	四、三六八、五八七	六、二八四、七九	六、八八、一七

鑄造用銑鐵の産額

マツサチユーセツツ、コンネクチカット	三〇八七	四七二五	四七〇〇
ニューヨーク、ニュージャージー	四三六〇三三	三六九、七七一	三三、六五一
ペンシルバニア	四〇五、一九九	四八六、九六八	五五九、七六七
メーリーランド、ヴァージニア	一〇三、四〇九	一三五、六二五	一九二、四五四
ア、ウエストヴァージニア	一七、三三八	八、三三〇	四、一五一
ケンタッキー	一七、三三八	七、三三九	一三三、二六四
テネシー	六九、五五八	六九、三三七	八二、八六七
アラバマ	五三九、一五九	四一九、六〇六	四六五、一〇六
オハイオ	三〇〇、七六四	七六、三七〇	九一、七四三
インディアナ、イリノイス	六五、九六〇	一八七、九四八	一九九、六〇〇
ミシガン	一六四、九八四	二四五、〇七八	一六五、一五五
ウキスコニン	七七、四八三	四、四三三	七五、九三三
ミネソタ、ミズリ、コロレド	四、四三三	五九、四三六	三〇、八四二
合 計	三、〇七、七五七	二、六五、九七三	三、〇八、六四〇

可鍛性鑄物に使用する銑鐵の産額

ニューヨーク	七三、八二五	一〇四、六六七	七四、二九八
ペンシルバニア	一、九五九	六、三六六	五、四一五
ケンタッキー、オハイオ	一〇三、二三六	三〇七、七五〇	一三九、六八二
インディアナ、イリノイス、	八三、九六八	一七、五〇六	一八八、四四四
ミシガン、ウキスコニン	二七、八五二	五五、四〇三	四六、〇八三
合 計	三、〇七、七五七	二、六五、九七三	三、〇八、六四〇

鍛冶用銑鐵の産額

ニューヨーク、ニュージャージー	三、四三三	四三、〇七	六、七六〇
ペンシルバニア	六三、〇七四	九四、三六八	五〇、八七
ヴァージニア	二、六七三	九、二二八	一六、一〇三
テネシー、ケンタッキー	三、八〇	七、〇三	一、三六
アラバマ	一、六四三	一、六七一	一九、五七〇
オハイオ	五、七九七	五、二七〇	七、〇六〇
合 計	一、三六、七九七	一七、四三三	一、九、三三六

スビーゲルアイゼン及び滿俺鐵の産額

統 計

ニューヨーク、ペンシルバニア、メーリーランド、アラバマ、イリノイス、コロレド、ウオシントン、カリフォルニア	九〇、三二〇	一、三六、六四七	一、八九、〇四六
合 計	九〇、三二〇	一、三六、六四七	一、八九、〇四六

上記以外の銑鐵の産額

ニューヨーク、ニュージャージー	四、二六	四、四七〇	二、一〇八
ペンシルバニア	四、七六六	八、二一八	八、五八六
ヴァージニア、ウエストヴァージニア、テネシー、アラバマ	九、九三〇	二〇、五五五	二七、九八四
オハイオ	四、七七〇	五、二一七	五、〇〇六
インディアナ、イリノイス、ミシガン、ミネソタ、ウキスコニン、ウオシントン	七、三三	三、三六六	九、七五
合 計	三〇、六四	四、一六四	四四、六五九

一九一六年前半年に於て賣物又は製造家用としての銑鐵産額

種 類	賣 場	製造家用	合 計
鹽基性	一、三四、九〇七	七、五九、一七八	八、八三、〇八五
ベツセマー及び低燐	八〇、一五九	六〇、三七、五八五	六、八三、九七七
鑄物用(硫酸鐵を含む)	三〇、三七、六四六	四八、七六四	三、〇八、四一〇
可鍛性鑄物用	四六、〇八三	—	四六、〇八三
鍛冶用又は壓延用	八七、五九五	八、二七二	一、六九、三〇六
滿俺鐵	三、三二〇	七六、四四一	九、九九五
スビーゲルアイゼン	七四、八八六	一四、二〇九	八九、〇九五
其他	二、九四〇	一、五二四	四、四六四
合 計	五、七六、〇三五	一、三、八五、九一七	一、九、六、九三三

●六月中に於ける獨逸の銑鐵産額

六月中に於ける獨逸の銑鐵産額は、一、〇八一、五〇七噸に上れり(五月中は一、一一一、五七四噸なりき)。六月に於ける毎日の産額は平均三六、〇五〇噸にして五月中の平均三五、八九〇噸を超え最高率を示せり。而して六月中の全産額

を種類別にすれば次の如し。

一七六、二二二噸	鑄造用
一四、六五〇噸	ベッセマー鐵用
七〇六、二一四噸	トーマス鐵用
一六七、一七一噸	製鋼及スपीゲル用
一七、二五〇噸	鍛冶用

一九一六年六月一日迄の全産額は一九一五年六月一日迄の全産額五、五三四、三三三屯に對し六、四九七、〇三二噸なり。尙一九一四年六月三十日迄に至る六ヶ月間の産額は九、二八七、九一五噸なり。(The Iron Age. Aug. 17th, 1916)

●獨逸に於ける電氣爐及ひ坩堝鋼

獨逸に於ける電氣爐及ひ坩堝鋼の生産額は戦争の影響を受けて興味ある對照を示せり。次表は當局の調査によるものにして總て噸にて示せるものなり。

一九一四年八月	電氣爐鋼(一ヶ月)	坩堝鋼(一ヶ月)
一九一三年	三、八二〇	八、三三四
一九一四年	八、七四九	八、六四四
一九一五年	七、四四五	七、九四四
一九一六年自一月至六月	一〇、八〇四	八、三三〇
	一四、〇七五	八、七〇〇

電氣爐鋼は一九一五年に至り頓にその産額増加したるに反し坩堝鋼は一九一三年よりその産額殆んど不變なるを見れば不尠興味を覺ゆるなるへし。

●露西亞に於ける一九一五年中の鋼の輸入額

全露西亞に於いて一九一五年中に輸入したる鋼其他は次表の如し。

一九一三年	一九一四年	一九一五年
鍛鐵及鋼	三、八六〇噸	三、七〇〇噸
鐵力板及び薄板	七、三三〇噸	四、九二〇噸
針金及び製品	八、七〇〇噸	七、四九〇噸
合計	一、九一三噸	一、九一四噸
	四、三三〇噸	六、六六〇噸

一九一五年に於ける輸入高が一九一四年のそれに比し著しく増加せるは主として針金の輸入によるものなり。

●西班牙に於ける鐵及鋼の狀況

西班牙政府の委囑せる鐵及ひ鋼の狀況調査委員の報告によれば同國現今の鐵鋼の狀況は次の如し。

高級の鐵鑛は多量に國內にあれども石炭の缺乏と熔鑛爐の操業容易ならざる爲め製鐵業者はその生産力を増加せしむる事を得ず。一九一三年中には一、〇〇〇、〇〇〇噸の鐵鑛を採掘したれ共西班牙にて使用せられたるは僅に一、〇〇〇、〇〇〇噸に過ぎず他は總て外國に輸出せられたり。

されは鑛石を輸出する代りにより多くを精煉する良策とすといへり。五月十五日發布の布告には鐵及屑鐵の輸出を禁止せり。然れ共現下の狀態にては内國の要求を充したる時のみはこれを許可すへきなり。且つ又内國に於ける需要充されざる限りは製品も輸出をなすへきものに非ず。而し

て内國の需要か充されたるや否やは政府にて斯道の大家をして調査せしむる事となるへし。又調査局を設けて勞銀其他土地の状況に基き鐵及び鋼の最高賣値を一定せしむる事とならむ。

●加奈陀に於ける鐵及鋼の産額

米國鐵鋼協會はその特別統計會誌第四號(一九一六年)にて一九一五中加奈陀に於ける鐵、鋼塊、鑄物及び總ての鐵鋼壓延製品、並に一九一六年前半年の銑鐵の産額を發表せり。この統計によれば、

年度	銑鐵の産額(種類別によるもの) 一九一〇年—一九一五年 (*硅酸鐵を含む)		
	鹽基性	ベツセマー	鑄造用*
一九一〇	三、六五〇、九〇	三、二四九、四〇	一、四三三、九八六
一九一一	四、三三〇、三〇	一、八六二、七〇	一、九〇三、三〇
一九一二	四、八九七、九〇	三、八七〇、三〇	一、九四〇、八〇
一九一三	五、五八、五〇	三、七六三、三〇	三、五三、三〇
一九一四	三、三二、四五六	一、八四〇、五三	一、七四、四〇六
一九一五	六、〇三、六九	一、三七一、四	三、五七、六九

銑鐵の産額(燃料別)一九一〇年—一九一五年

(*木炭及骸炭を以て製出したる銑鐵、電氣によるものをも含む)

年度	骸炭		合計	年度	骸炭		合計
	木炭*	合計			木炭*	合計	
一九一〇	七四、一七四	一六、〇三六	七四、〇三〇	一九一三	九、六八四	二八、二七〇	一〇、一五、一一八
一九一二	七九、七七六	二四、六五三	八四、三六八	一九一四	六、九〇八	一五、〇九三	七、五九、七三
一九一三	八六、五六六	三六、三七三	九二、三六八	一九一五	八、〇三六	二二、七七四	八、五三、三〇

銑鐵の産額 一九一六年前半年の産額

種 類	一九一五年前半年	一九一五年後半年	一九一六年前半年
鹽 基 性	二、九二、五六七	三、七〇、八三三	三、八八、三七七
ベツセマー	五、二三八	八、四七六	二、二七、五

統 計

鑄造用、滿俺鐵其他	其 他	合 計
五、九六、四六	九、三、八五	三、六八、二五
六、一、三三	一、六、一八	四、六、五九
九、五、六〇	一一、一八	五、〇、七〇

鋼鑄塊及鑄物の産額 一九一〇—一九一五

年度	鑄 塊	鑄 物	合 計
一九一〇	七三三、〇〇	一、八九三	七四〇、九三四
一九一一	七六八、五五九	三、三三二	七九〇、八七一
一九一二	八二〇、七九三	三、三三九	八二四、一三二
一九一三	一、〇〇六、一四九	三、六三五四	一、〇四二、二〇三
一九一四	七四四、五九六	一、八七、五	七四六、四七一
一九一五	八七三、三六五	三、九四九	八七七、三一四

一九一五年に於ける全産額は合金鋼鑄塊及び鑄物凡そ五〇〇〇噸を含む(一九一四年のものは四八〇〇噸を含めり)

一九一五年には七の工場はベツセマーを八は平爐を二は坩堝、三は電氣鋼鑄塊鑄物を製出せり

鋼鑄塊及び鑄物の製産額 (製造方法別)

年代	平 爐			其 他	合 計
	平 爐	ベツセマー	其 他		
一九一〇	五、四三、三四	一、九七、七〇	—	七、四一、〇四	
一九一一	六、〇一、〇四	一、八九、七九	—	七、九〇、八三	
一九一二	六、四三、六二	二〇七、五九	—	八、五三、二一	
一九一三	七、六八、六三	二七三、三九	—	八、〇六、〇二	
一九一四	五、五六、〇〇	一、八六、一八	—	七、四二、一八	
一九一五	八、四七、七六	三、三三二	—	九、八〇、〇八	

壓延製品の製産額

製 品	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
	軌 條	三、〇、五七	四、三、八八	五、〇、七九	三、八、三四
建築型鋼及線材	七、六、六七	六、四、〇八	六、八、〇四	五、九、〇五	一、四、八、二九
鋼板、薄板、釘材、棒鋼等	三、四、七〇	三、七、三五	三、九、三四	二、八、二五	三、八、七七
合 計	六、一、九四	八、六、三四	九、七、〇七	六、五、五九	六、五、三、八

九七七

釘の製産額——一九一五年中加奈陀に於て製出したる鐵及鋼製釘は一九一四年の一、一四四、〇〇〇樽に比し四九二、〇〇〇樽の増加即ち一、六三六、〇〇〇樽に上れり（一樽一〇〇封度入）

山形綴釘用棒其他の製産額——加奈陀に於ける山形綴釘用棒、繼目釘、其他軌條接合用品の一九一五年中の製産額はスパイク、ボルト、ナット其他壓延製品に非るものを除き九四〇六噸に上れり。而して一九一四年一九一三年及び一九一二年に於ける産額は夫々三四、一六五噸五四、八三九噸及び五二、一五七噸なりき。

鑄鐵管の製産額——一九一五年中加奈陀に於ける鑄鐵瓦斯管、水道管、及び付屬品並に鑄鐵製排水管及付屬品の製産額は一九一四年の九三、二〇〇噸（二〇〇〇封度噸）に比し三九、五〇〇噸の減少即ち五三、七〇〇噸なり。

（以上 The Iron Age, Aug. 10th, 1916 より）

●獨逸船腹の喪失 最近シツプビルディング、エンド、シツピングレコード誌の記する所に依り獨逸船にて聯合國側の爲め補獲又は撃沈せられたるものを主要汽船會社別に見る時は其數左の如し。

漢 米 線	戰前所有船	喪失船
北獨ロイド	一八一隻	三〇隻
ネプチニオン線	一一〇	二四
ハンザ線	七五	一五
	六八	三四

獨逸リバント線	六〇	二〇
オルテンブルヒ葡萄酒線	二五	一〇
合計	五二九	一三三

又最近我が確かなる筋にて調査せる所に依れば空しく中立國の港灣に繋留せられつゝあるものは左の如し。

國名	隻數	總噸數
米 國	八八	三六一、五〇八
支 那	七	一三、八二一
暹 羅	九	一九、二五二
蘭 領 印 度	三四	一七六、七一
伯 西 爾	四四	二三二、四一六
亞 爾 然 丁	一二	六二、九八二
ウ ル ガ イ	八	四〇、六五九

●獨逸海軍商業破壊 最近和蘭を通して海軍省に着せるワイヤー海軍年鑑（英のブラッセルと信用匹敵）は開戦以來の獨逸海軍勢力の消長を明記せり其の最も顯著なるは潜水艇の商業破壊にして開戦以來本年五月末日までの撃沈總數は左の如し。

船 籍	隻 數	噸 數
英 國	四四七	一、四一七、五六八
佛 國	七二	一五六、九三八
露 國	四九	六七、二五四
伊 國	三九	七六、七七二
白 本	一〇	一九、一四七
日 本	五	三一、五九七
計	六二一	一、七六九、二九四

即ち合計六百二十一隻にして噸數約百七十七萬に達す日本

の五隻は靖國、八坂、大越、建國及發表せられさる一隻を云へるものにして小雛丸は其後に屬す。

次に例のエムデン以下の輕巡洋艦並に假裝巡洋艦の擊沈したる商船も意外に多く其表次の如し。

擊沈艦	被擊沈船	噸數
エムデン	一七	七三、八九五
ドレスデン	五	一六、〇八〇
カールスルーヘ	一七	七六、六〇九
ライプチツヒ	三	一一、一四九
ケーニヒベルヒ	一	六、八〇〇
カイザールウキルヘルムデアグロッツセ	二	一〇、四五八
クキンプリンツウキルヘルム	一三	五三、六五九
プリンツアイタルフレデリック	一〇	三〇、〇四九
メーベ	一五	五七、七四六

(後の四隻は假裝巡洋艦)

計

八三

三三七、四四五

にして其内英船七十隻、佛船十隻、露船二隻、白國船一隻なり、而して本年六月より去月末日迄に潜水艇の商船を屠ること一日平均二隻弱なるを以て開戦以來本月十日迄には少くとも八百五十隻二百五十萬噸の擊沈ありしものと見るへしとなり。

●外國被備船概況

最近遞信省管船局の調査に依れ

は我國商船の外國人に備船せられたるものは八月末現在に於て四十六隻十五萬二千八百六十三噸にして之を前月の四十三隻十四萬六千七百九十七噸に比すれば三隻六千六十噸の増加なるか月別比較左の如し。

月別	隻數	噸數
一月	三十六隻	一〇三、四三七噸
二月	四十二隻	一三四、五一七
三月	三十七隻	一一七、六六〇
四月	五十一隻	一七一、一六〇
五月	三十九隻	一三一、一六一
六月	四十六隻	一五四、三〇七
七月	四十三隻	一四六、七九七
八月	四十六隻	一五二、六八三

●本溪湖煤鐵公司製銑成績

同公司は大正四年一

月十三日熔鑛爐の完成を告げ點火式を舉行し爾來一日平均百餘噸の出銑あり同年十二月十二日迄に二萬九千四百〇四噸の出銑を見るに至れり而して現今の出銑高は一日平均一百噸なりと同公司は四年の先約物四萬餘噸あるも其交付期日は五年度に於て爲すへしと、尙ほ事業は擴張の計劃中なりと云ふ歐洲戰亂の結果は是れ迄とは反對の景況を來たし日本内地よりの注文多きも滿洲地賣向は一向振はず、南滿、東清の二鐵道を除き他方面の注文殆ど皆無の姿にて奉天、遼陽、安東、營口の各特約販賣店にては頗る賣足遠く多數の殘銑を生したるため、一時は之を内地へ輸送せし程なりしと、而し今日迄の支那内地向を見るに多く荒銑、第二號銑の如きものにして其他は希望者頗る稀なりと云ふ、そは同銑鐵か一般支那工場に歡迎せられざるは從來の支那式銑鐵及古鐵を取扱ひ來りしたため舊慣墨守的の支那人には之れを取扱ふの技能も經驗もなく亦それ等の研究をなすに

もあらず、唯使用し能はずとて顧みざると一は價格に於て稍高價の嫌ひあり此二點は僅かに其理由をなせるものなるへしと云ふ、尙ほ參考として大正四年度に於ける同銑鐵の成績を左に表示せんとす。

大正四年度銑鐵成績表 (表中單位を噸とす)

銑鐵摘要	拂出			貯藏高引
	出銑噸數	輸出噸數	賣自用消費合計	
特一號銑	九四〇三	七四七五	一七五五	二六二
一號銑	一一四七五七	九八八二六四	一三四五五	一五二一
二號銑	六〇五九四一	五四四〇〇〇	五九六〇〇	九六〇
三號銑	三二二七	二四二〇〇〇	二〇〇〇	六二七
四號銑	六四三三	—	—	六四三三
低燐銑	七三六六六三	三三七一	三三六	一七三〇六
低燐銑六	一五九〇六	一三三七七	—	二〇一九
特種銑	九三三七五	九三、〇〇	—	七五
白銑	六九三〇六	五〇〇〇	一七、〇〇	六三〇六
荒銑	五三三四	—	一五、〇六	二五〇〇
合計	二九四四〇六	三三三〇八七	二五九、〇六	三、五〇〇

銑鐵販賣成績表 (表中單位を噸とす)

仕向地	數量
滿鐵會社へ賣渡	六〇〇、〇〇
東清鐵道會社へ賣渡	七〇〇、〇〇
安東、遼陽、奉天、營口、各特約店	一、二三九、〇六
輸出噸數	二三、二〇八、〇七
自用消費	一三六、六三
合計	二五、八八三、七六

表中輸出とあるは日本内地向にして其仕向地は東京二分大阪八分の割合なりとす。

●銅産額の激増 價格亦激騰す

本邦銅の産額は逐年増加の傾向を示し殊に最近に至り銅價の高騰せるに勢ひを得て其産出激増せり即ち最近五ヶ年間の銅産額は(單位千斤)

明治四十四年八九、〇〇二 ▲大正元年一〇四、〇三七 ▲大正二年一一〇、八三五 ▲大正三年一一七、四三九 ▲大正四年一二五、六九二

にして本年七月迄の産額は

月	産額
一月	一〇、五一四
二月	一〇、九四一
三月	一〇、八六六
四月	一〇、〇二八
五月	一一、三二八
六月	一一、五〇五
七月	一〇、八〇〇

合計七五、九八三千斤を算し十二月末に至らば優に一億三千万斤以上に達すへき形勢なれば昨年比し實に二割餘の増産を見るべく而して價格は大正三年七月歐洲戰爭以前に於ては九、八銅(大和丸)大阪相場三十三圓臺なりしも時局以後漸落し同年十二月には三十一圓五十錢に低下し同年中の平均價格三十三圓二十四錢を呈し大正四年に入り稍價格の恢復を表し最高四十八圓(同年十二月)を呼び其平均價格は四十圓八十八錢に達せり而も本年に入りては益々高騰を來し六月中の如き六十一圓を稱するに至り結局本年七月迄の平地價格は實に六十圓五十七錢即ち二割方の騰貴となれる如く今後も多少高値を呼ぶべき有様なり但し電氣銅は昨年の平均價格四十七圓二十一錢本年七月迄の平均價格七十圓四錢にして之亦昨年に比し二割餘の昂騰を示せり

●輸出入貨物品別表(大藏省發行の大正五年七月外國貿易月表中鐵及鋼に關するもの左表の如し)

第一 輸出貨物品別表

内國産品	大正五年七月		大正五年累計		大正四年七月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵管(斤)	七六、〇五五	九一、二八	三、一九三、六〇一	三九一、八九九	五九七、〇八三	五八、一八三
屑鐵及故鐵(斤)	二二、三三三	一、五八八	三、五三三、〇九四	一六二、一三五	六、〇九三、七八四	一三六、七一九
鐵鍋及鐵釜		二六、三六五		一四〇、七三四		二九、二五三
鐵製品		六二、七〇〇		四〇、九九、二七〇		一、四五五、二四九
人力車(輛)	六八四	二四、四〇一	三、九三四	一五、一三七	四、〇二〇	一二九、三六九
船舶(汽船)	二	一三三、三五二	一	六二六、〇九〇	四	三五七、五〇〇
同(其他)		四、二二六		三三、三八四		二二七、四九七
機械同部分品及附屬品		一、六八二、二二〇		九、六五九、〇七六		四、七七七、四四一
石炭(噸)	六三二	九、九八八	二、三八六	四五、五九四	一、二九八	二五、七九四
石炭(噸)	二二五、一六三	一、五七三、六二七	一、八八四、七四七	一二、五八七、二〇九	一、六五六、〇五三	一一、〇五五、三七二

第二 輸入貨物品別表

外國産品	大正五年七月		大正五年累計		大正四年七月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵(鑛擔)	六九七、五三八	二四八、三七二	二、〇九二、一九一	七五四、二六三	一九八五、〇〇三	六八二、八七六

外國産品	大正五年七月		大正五年累計		大正四年七月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
銑 鐵(斤)	四八、一四三、〇三三	一八、一三、九二一	一九九、一〇〇、八七四	七、五二、八八四	一一八、八六七、七八七	二、七二七、六三五
鐵 鐵(斤)	一六九、三四四	九、六九七	一、〇五八、六九六	五八、四〇三	七九五、九一七	三六、一四五
鐵 鐵(斤)	五四六、三二七	七三、六七九	二、三三七、六二一	二七、六七三	二、六五七、四五四	二、三三〇、三三九
塊 鐵(斤)	五七七、七八三	八一、九六三	一九九三、五八九	二四五、四一八	一、七七七、九三〇	一、七三、一六八
及 他不可鍛性鐵合金(斤)	八六八	三、〇〇〇	一八五、七六四	五三、四八二	一、六七二、六九〇	二九七、七四一
銳 他不可鍛性鐵合金(斤)	四五五、七二三	六一、七五八	六、五八四、一六三	八一九、六八四	二、四八六、四〇六	一九八、六四〇
銳 他不可鍛性鐵合金(斤)	二五〇	一四	四一四、七三九	四八、二四二	一〇八、四六九	九、〇九一
條竿テーパーンゲル形鐵類(斤)	二〇、四六三、九二〇	一、九八四、五七七	二二九、七四九、九三三	一一、二一六、五三八	三六、七〇四、六四一	二、〇五五、二九五
ワイヤ ロツド(斤)	三、六一〇、四五三	五三、七八五	一五、〇〇二、六四七	一、七四八、〇〇四	五、六八一、三一七	三五二、一四〇
板 (金屬を鍍せざる)(斤)	二二、六三三、五八六	二、〇六三、七九五	一五三、〇四八、三〇〇	一一、六二五、八九五	四八、九三七、六八五	二、七五三、四七二
板 (電鍍したる)(斤)	六三四、七〇四	六一、〇八四	五、四三二、二七一	七六一、七〇六	九、七三三、〇八八	九五七、八五九
板 (葉鐵葉鋼其他)(斤)	七、七〇七、七六四	一、三〇二、二〇三	三九、五二二、〇六一	五、七三四、九二七	二二、九一四、六六三	二、三五四、二一四
線 (金屬を鍍せざる)(斤)	一三三、八〇一	一九、八三八	二、九六五、二六〇	三三〇、三四五	一、七七六、八五八	一、三六、九九五
線 (電鍍したる)(斤)	三、六八〇、二六六	五、六三、五八七	一八、一七〇、五九九	二、三六三、九〇一	二二、一〇一、六一〇	一、七四六、七八三
帶 及 箍(斤)	八八五、一九八	一一〇、一三五	三、四三九、六七〇	三六九、〇四三	七八二、〇八一	五一、六八八
線 索 及 撚 合 線(斤)	三九、〇四九	一三、四三三	三、六四、七七七	八〇、八三三	三一四、四八七	五八、六五一
筒 及 管(斤)	三、〇七四、一三七	三五九、二六九	一五、一六六、七九四	一、六五三、六七九	九、六四四、六六五	八一〇、四三五
屑 鐵 及 故 鐵(斤)	三、三三七、一九五	一〇六、二一七	一八、四八一、五八八	五九九、五五九	二、一七〇、八八二	七三、四〇一

釘	類 ドリ ツグ スパ イキ	二,五五一,八八九	三七五,一七八	二五,〇四八,七八三	二,九〇五,九〇九	二,二七二,一八七	三四〇,六五六
鐵道建設材料(其他)	(其他)	四〇七,五四八	三四,〇一六	一,七五四,五七三	一二五,〇四一	一三,八九三,五五一	五四六,六五八
電線支柱同部分品	架設材料	—	—	三八,八一八	三,七五三	二,七一〇	一,五四七
家屋橋梁船舶等建設材料	—	二四,七九〇	四,三七五	一,四五二,六五三	二五,六九六	四四五,四四七	五四,八一〇
鐵道車輛及部分品	—	—	五八,八九一	—	一三〇,六五五	—	三八〇,一四三
自動車及部分品	—	一三	三四,〇七六	一三三	三三五,八七〇	一五	一〇二,六三五
自轉車及部分品	—	一九三	一四,〇一〇	九三五	五七,四九四	一,八八一	一〇一,九〇八
汽船(船齡十年以下)(隻)	—	—	六〇〇	—	六〇〇	二	一,八四〇,三二六
同(其他)(隻)	—	—	一四〇,〇〇〇	一一	二,三六,七一六	四	四三,九三四
汽罐同部分品及附屬品	—	—	八三,六三三	—	五四一,一九六	—	三〇〇,五五四
フューエルエコノマイザー(斤)	—	五二,七一〇	五,六六四	三六九,〇六五	三七,三九六	四六二,七七三	四一,四八九
鐵道機關車同炭水車	—	—	—	—	四四,二三三	—	二〇〇,九〇四
蒸氣機關車類	—	—	—	—	—	—	—
蒸氣機關及スチームタービン	—	四,九六九	二,二三六	一四三,三六四	八三,五四九	九一,四九三	五〇,四三三
瓦斯石油熱氣機關	—	一,五七五	一,二七七	二七〇,五六七	一一九,二八八	一八二,二六五	一一七,〇五九
ウオータータービン及ベルトン水車	—	—	—	二四八,五三〇	一一五,二〇五	一〇〇,二九五	四三,一九五
發電機電動機類	—	三〇,三〇三	二七,四五五	二九九,二三〇	一七九,六三九	七二,六五一	三七〇,八七三
縫衣機	—	六二,八〇七	五三,二五五	一六七,七五一	二三八,八四三	二〇一,二一〇	一三〇,五六四
金屬工及木工機械	—	一八四,五九七	一五五,八三二	一,六一,二七二	八四一,九九六	一,六八四,九五七	五七八,八〇三
紡績機	—	四〇三,二四〇	一二二,四二二	二,八九四,一六九	八一九,三三七	二,九三四,五八七	八〇九,五四七
石炭コークス(石炭)(噸)	—	五〇,九八一	三六六,四〇〇	三三二,四一〇	二,三七一,六一三	三七四,八〇三	二,七八一,〇三五

●大正五年六月中本邦重要鐵山及炭坑產額表(農商務省鑛山局調)

鐵の產出狀況

鑛山名	所在地	大正五年六月	大正四年六月
釜石	岩手(銑鋼)	七二八、八五九	六六七、九三〇
仙八	同(銑)	四三七、〇四一	三〇九、二二一
栗木	同(銑)	六七、九三九	四二、二八六
輪西	同(銑)	七二、一五二	四七、二〇〇
石炭の產出狀況			
鑛山名	所在地	大正五年六月	大正四年六月
夕張	石狩	一三四、六九三、六六六 ^斤	一三九、九三九、九三六 ^斤
眞谷地	同	一八、六六三、一一二	一九、六三三、一四四
新夕張	同	三七、〇九三、五七七	二四、九四四、八九二
空知	同	三一、八三四、五七六	二五、七二八、二八〇
幾春別	同	一〇、五六六、〇三四	一一、八八三、六四八
幌內	同	二四、三六〇、六七二	二一、四四一、三三六
奔別	同	一一、〇三〇、〇四八	一三、六九三、〇〇八
三井登川	同	一四、〇九三、七〇五	一八、三八八、七〇九
大夕張	同	一一、三九二、二七四	一一、〇〇四、八三三
三美唄	同	三〇、七八二、一三六	三〇、一八九、七七五
入山	福島	六九、九〇五、九〇一	六二、一五一、四一七
小野田	同	二六、〇五四、〇〇〇	二五、二七七、〇〇〇

內郷	福島	五〇、八八三、九六〇	四七、七三〇、〇〇〇
王城	同	九、八三五、一九〇	五、五一九、七二〇
好間	同	三五、二四五、五六七	三〇、七七九、〇〇七
隅田川	同	一一、〇九八、〇七五	五、五三三、三三八
平	同	六、六九二、四七四	七、五〇五、三三六
茨城無煙	茨城	二〇、一八二、六二八	二四、三三四、七二七
重内	同	一〇、〇〇九、五九一	八、〇七六、四四三
山口無煙	山口	七、二八三、三五二	五、四三四、三七七
茨城	茨城	一四、五〇五、〇三六	一一、八六三、一八四
清田	同	六、〇七九、五六三	六、八三三、九四八
松浦	長崎	九、一七八、六八〇	八、九五四、四〇〇
高島	同	三〇、九九二、〇三五	三三、六八七、六七五
松島	同	三八、一九八、一六〇	四三、八六一、八四〇
崎戸	同	四六、二二四、七二六	三五、九八六、八四三
香燒	同	四、六七二、八七五	四、八七六、九七五
福島	同	一一、三〇三、六〇二	一三、九六八、〇〇〇
沖ノ山	山口	三三、七三一、五〇〇	三一、九九六、七〇〇
大嶺海軍	同	八、五二九、六三七	八、〇一三、八九三
東見初	同	一三、八五四、二七〇	—
大正	福岡	九、六四五、三〇〇	八、一三九、六〇〇
大辻	同	三三、九六七、五八〇	三四、六四九、八五〇
高江	同	一三、四二八、八八八	一三、二九八、三九八
新手	同	一〇、三五五、五三〇	二〇、一七六、八〇〇

新原海軍	岩崎	御徳	新入	三好	大之浦	明治	三本洞	鹽頭	木屋瀨	金田	大峯	赤池	三田川	峯地	豐國	二瀬	忠隈	上山田	鯨田	豆田	三山野	芳雄	
福岡	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三九、六六六、〇三三	一四、一四一、三〇〇	一一、九八一、一〇八	五一、五七三、八一六	一一、九九一、四〇〇	九四、八四〇、五五〇	六四、四九六、七八三	二八、五二一、二八〇	六八、五九四、三七〇	二二、一七九、六七〇	三四、九三三、六六八	四二、四七三、八八〇	一七、九二九、三六六	一三五、一六一、一七四	七〇、九八一、六八〇	七三、四八八、七三〇	八三、八八八、四〇三	五〇、三八七、八七七	二四、〇九九、四一五	五八、九三〇、九六〇	一五、〇八九、七六〇	四八、八七五、二九九	三三、九七一、二八〇	
四〇、一八五、四一六	一五、四一七、五〇〇	一四、三六三、一一六	五三、五三三、五一六	一三、四六九、八〇〇	八六、一五〇、七四〇	五八、六五一、七五一	三〇、四〇九、六八〇	四八、七七六、三八〇	一三、一三三、一八〇	六九、六九六、七二〇	二八、三八〇、三四〇	一三、九九五、〇〇〇	一三四、二八一、六二九	六一、四六三、八〇〇	六四、一五〇、四四〇	八七、一九三、三四	四八、五〇〇、五五九	二一、八二七、三三三	五三、五四〇、九三八	一三、九五五、七六〇	四八、三三八、〇二二	三三、三四四、六四〇	

下山田	三池	方城	中鶴	室木	大隈	高松	高田	龜山	旭山	三笠	泉水	平山	野田	宇美	新目尾	大谷	姪濱	福岡	杵島	相知	芳谷	杵島第二	岩屋	久原	
福岡	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佐賀	同	同	同	同	同	同
二〇、七八、三八〇	二五三、五九六、二五二	三三、〇三三、三五〇	一七、七七九、四四〇	一三、一七四、〇〇〇	一一、九五〇、三〇〇	九、九四五、八一八	八、〇四四、九六〇	一四、二〇九、四四〇	七、三三〇、二九〇	九、三二五、六〇〇	一七、一四九、〇二五	二九、二八、二四〇	五、五二八、四六〇	七、三七六、九六〇	二二、三五六、〇六二	一八、一九四、二七〇	一六、一九五、〇九〇	一〇、二九八、八五〇	五三、八三三、四一〇	六六、七九二、〇六二	六一、四四〇、六九〇	三〇、三三一、七六〇	五、三三三、三二九		
一六、四七六、三〇〇	三三六、九四〇、三七九	一四、五二一、二八一	一〇、二七三、二〇〇	九六、一一、一〇〇	九六、〇八、九〇〇	八、四一三、三五六	七、三三三、四〇〇	一一、二七七、三六〇	一〇、〇八七、五三〇	八、四九五、七六〇	一三、二六八、一九五	五、八一、一一〇	六、七二七、三四〇	一〇、六三四、二五〇	一三、三六二、七八七	八、一八〇、五四一	一〇、二九八、八五〇	三九、六五六、二二五	七、二九五、三三六	四三、八五二、二五〇	二一、九五五、五六〇	六、四八〇、七三四			